

# アラブ人間開発報告書について

国連開発計画 (UNDP)

## 「人間開発」のコンセプトおよび『人間開発報告書』について

「人間開発」の概念は社会の豊かさや進歩を測るのに、経済指標だけでなく、これまで数字として表れなかった側面も考慮に入れようとして生まれた。

「人間が自らの意思に基づいて自分の人生の選択と機会の幅を拡大させること」を開発の目的とし、そのためには「健康で長生きすること」「知的欲求が満たされること」「一定水準の生活に必要な経済手段が確保できること」をはじめ、人間にとって本質的な選択肢を増やしていくことが必要だとしている。

『人間開発ってなに』パンフレットは以下のサイトからダウンロードできます。  
[http://www.undp.or.jp/Publications/whats\\_hd200509.pdf](http://www.undp.or.jp/Publications/whats_hd200509.pdf)

人間開発報告書(HDR:Human Development Report)は1990年に元パキスタン大蔵大臣、当時国連開発計画(UNDP)総裁特別顧問であったマブール・ハック(1934-98)の発案によって創刊された。開発は「持続可能な開発」をめざすべきであり、そのためには経済成長を生み出すだけでなくその恩恵を公平に分配できるような開発でなければならないという考えに立って、さまざまな角度から開発の重要課題を扱っている。(UNDPパンフレット『人間開発ってなに』より)

HDR関連ウェブサイト

英語: <http://hdr.undp.org>

日本語: <http://www.undp.or.jp/hdr.htm>

## アラブ人間開発報告書シリーズについて

アラブ人間開発報告書シリーズは、アラブによってはぐまれた変革への戦略的ビジョンを結晶化させるための一つの試みである。

リマ・カラフ・フナイディ  
国連事務次長補および  
UNDPアラブ局長  
アラブ人間開発報告書  
執筆主幹

アラブ人間開発報告書(AHDR)シリーズの第一作目は、アラブ地域および域内諸国の双方に関連した開発プロセスの批評書、さらには憲章となることを企図し、2002年に発行された。AHDR2002およびその後展開されたAHDRシリーズは、アラブ地域に対し、内部からの改革アジェンダ構築に向けた、対話の糸口と議論の構築のための中立なフォーラムを提供した。アラブの豊富な知識と知見の上に築かれた同報告書は、基本的ニーズを超えた進歩と不足を測るための新たな方策と指標を提供している。さらに、同報告書は、独立性と、人間中心の開発とアラブ世界で最も貴重な資源といえる人的資本の動員を目的とした確固たる分析を同時に実現させている。

本報告書シリーズのコンセプトは2つの力強い見解に由来している。一つ目はアラブ世界の開

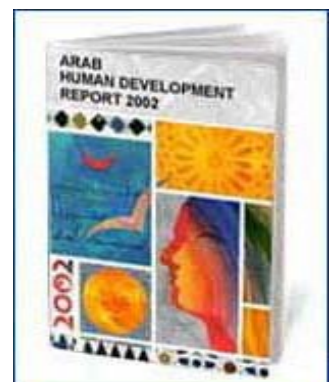
発はアラブの内側から起こらねばならないこと、二つ目は、同地域が現代のグローバルな力学の只中に置かれていることにより、また我々の経済・社会・文化的文脈に根ざした理由により、一国のみの散在的な発展は同地域に平和と繁栄を確実に定着させるには不十分であるという見解である。無論、そのような進歩は望ましく必要なことではあるが、それが地域内の諸国によって支えられ、諸国の中にも反映され、推進されたときに初めて、飛躍的に増強され、持続的なものとなるのである。

本報告書は、内部の社会改革と綿密な自己批判に基づいて、自己決定による変革へのビジョンを示すものである。新たなアラブ改革のパラダイムを確立させることは、本報告書シリーズの主要な目標の一つであり、この報告書は目標への道筋を示す灯台となるであろう。

## アラブ人間開発報告書2002 未来の世代のための機会創出に向けて

本報告書は、アラブ諸国が、人間開発の諸分野において、過去30年間で長足の進歩を遂げたことを明らかにしている。それにもかかわらず、アラブの制度的構造に深く根ざした欠陥が、現在のアラブの現実を支配している。これらの欠陥が人間開発の構築を阻んでいるのである。本報告書はこれを、自由、女性の地位向上(エンパワーメント)、知識に関連した三つの不足に集約している。これらは人間の能力にかかる重大な制約であり除去されねばならない。

建設的な見地に立てば、アラブ世界の人間開発の実現のためには、現在の不足を克服するのみならず、それらをアラブのすべての人々が享受できる利点、次のミレニアム(千年紀)において、すべてのアラブ諸国が誇りにできるような資産へと変貌させることが必要とされている。(裏面へ続く)



(表面から続く)

本報告書は、アラブ諸国には以下3点を基本とする社会の再構築に取り掛かる必要があると結論付けている。

- ・グッド・ガバナンスと優れた人間開発の指標というべき、人権と自由の全面的な尊重
- ・能力開発のあらゆる機会を利用し、獲得した能力を十分に発揮できるような、アラブ地域の女性の全面的な地位向上。
- ・知識の獲得とその効果的利用の連携。これを実現するための主要な推進力として、域内全域における人類の幸福の促進という目標のもと、知識が社会のあらゆる側面に効果的かつ生産的に取り込まねばならない。

大胆な発想が、未来への崇高なビジョンを思い描くだけでなく、実現させるための鍵となる。偉大な目標の達成には偉大な行動が必要なのである。

## アラブ人間開発報告書2003 知識社会の構築に向けて

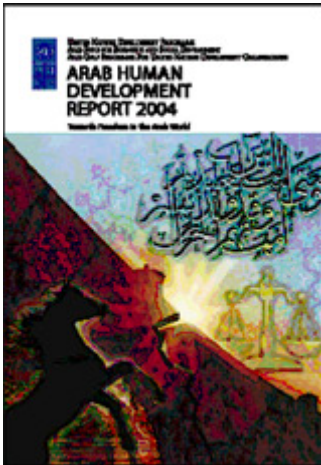
報告書第二弾は、最重要課題の一つである、アラブ諸国における知識社会の構築について深く検証することを通じて、この開発課題への取り組みを継続するものである。

報告書が末尾で断言しているとおり、知識は、アラブ人が遵守し、行使すべき宗教的義務に非常に近い。知識は、尊厳と繁栄の未来へとアラブ社会が向かう果てしない旅程の道標だ。知識の探求は、宗教、文化、歴史、そして成功を求める

人々の意思によって促される。旅程を遮るのは、人間の仕業に他ならない。すなわち社会的、経済的、そして何にも増して政治的な、過去と現在の欠陥が作り出した構造的な問題の仕業である。知識の新たなミレニアム(千年紀)の幕開けに、アラブ人は、知識の世界でしかるべき場所を得るため、この欠陥構造を取り除き、改革をすすめていかなくてはならない。



日本語概要は以下のサイトからダウンロードできます。  
[http://www.undp.or.jp/Publications/arab\\_hdr2003.pdf](http://www.undp.or.jp/Publications/arab_hdr2003.pdf)



## アラブ人間開発報告書2004 アラブ世界の自由に向けて

アラブ世界は、自らが歴史的岐路に立っていることを自覚している。国内における抑圧と海外からの侵犯の板挟みのなかで、アラブ人は、自分たちの将来を自ら決定することからますます遠ざけられている。

広義の自由とは、単に市民的・政治的自由(つまり、抑圧からの解放)だけでなく、人間の尊厳と相容れないあらゆる要素からの解放を意味する。本報告書では、自由な社会について述べたが、それは、今日のアラブ諸国の実情とは根本的な対照をなしている。

アラブの人々が本当に自由な、グッドガバナンスを享受できる社会を実現するには、社会の変革に自ら積極的に取り組む必要がある。彼らがなすべきことは、自由が制限され、法の抑圧が恒常化している状況から、社会の混乱を抑え、人的損失を最小限にとどめることのできる「自由とグッド・ガバナンス」の社会へ移行するための実行可能な方式を創り出すことである。これは、歴史的にも卓越した偉業とみなされることであろう。それによってアラブ地域はついに、享受してしかるべき自由を手にするようになるのだから。

日本語概要は以下のサイトからダウンロードできます。  
<http://www.undp.or.jp/news/pdf/20050405.pdf>

## 報告書の入手先

書籍版:  
United Nations Publications  
Room DC-2-853, 2 UN Plaza  
New York, NY 10017, USA  
電子版:  
<http://www.undp.org/rbas/ahdr>

Tel: +1(212) 963-8302  
Fax: +1(212) 963-3489  
E-mail: [publications@un.org](mailto:publications@un.org)

2006年1月  
国連開発計画(UNDP)  
渋谷区神宮前5-53-70  
UNハウス8階  
[www.undp.or.jp](http://www.undp.or.jp)

